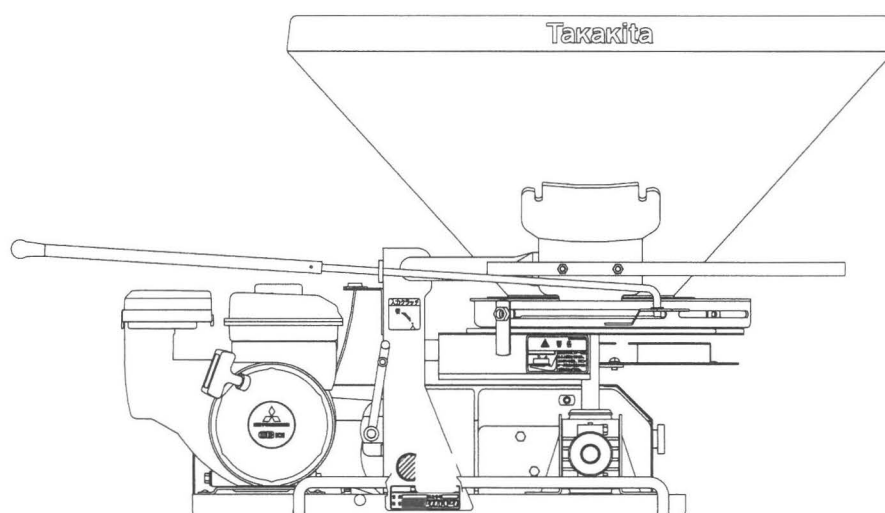


取扱説明書及び部品表

Takakita

フルーツキャスタ
FC1212



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。

お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットから右記QRコードを読み込んで
アクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**フルーツキャスト**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社へご注文ください。
- 本書は、**注意**として、製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社へご相談ください。

警 告 サ イ ン

 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

 **危険** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注意** その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	7
各部の名称とはたらき	8
運搬車への搭載	9
1. はじめに	9
2. 搭載前の注意事項	9
3. 搭載方法	9
4. 開閉レバーの長さ調整	9
運転に必要な装着の取扱い	10
1. エンジンスイッチ	10
2. 入力クラッチレバー	10
3. シャッター開閉ロット	10
作 業 方 法	11
1. 作業手順と要点	11
2. 肥料の投入	12
3. 散布量の調整	12
4. エンジンの回転速度について	13
5. 散布作業の方法について	13
6. 散布幅について	14
7. 傾斜地での作業	14
8. ケイ糞・粉状有機肥料の散布について	14
9. 移動するときは	14
10. 運搬車のトラックへの積込み・積降し	15
11. トラックおよびトレーラでの運搬	15
作業前の点検について	16
1. 点検一覧表	16
簡単な手入れと処置	17
1. エンジンの点検・調整	17
2. エンジンのエアクリーナー	17
3. Vベルトの張り調整	17
4. 散布方向の調整	17
5. 肥料について	18
6. 運搬車のエンジン保守点検（重要）	18
7. 日常の管理について	18
8. 長期格納時の手入れ	18
不 調 診 断	19
付 表	20
1. 主要諸元	20
2. 主な消耗部品	20

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

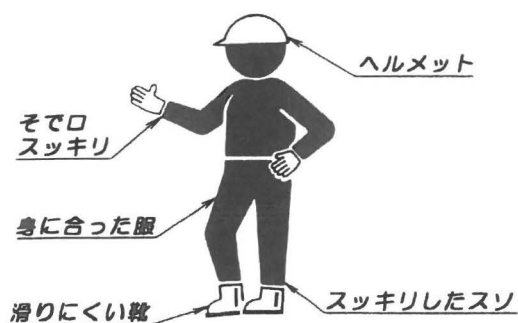
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

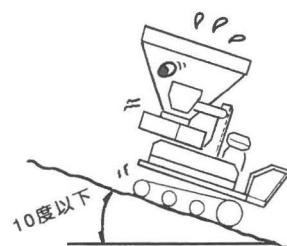
機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 積載量の厳守

本機は、積載量を限定しています。表示以上の積み過ぎは危険です。

積載量は平地で100kg、傾斜地作業は最大傾斜10度までとし、そのときの積載量は80kgです。

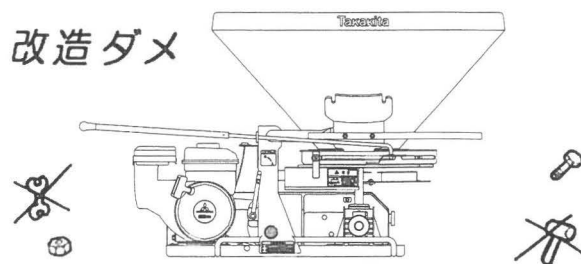


(4) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。

改造ダメ



(5) 使用目的以外への使用禁止

肥料の散布を目的として作られた機械です。他の目的には使用しないでください。

⚠ 安全に作業するために

(6) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。



(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でエンジンを停止し、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。

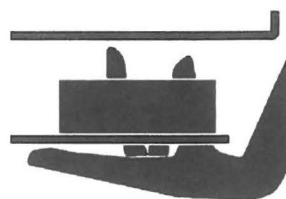


(4) 点検・整備は加熱部分が冷めてから

マフラやエンジンなどの加熱部分が十分に冷めてから点検・整備をしてください。守らないと火傷する恐れがあります。

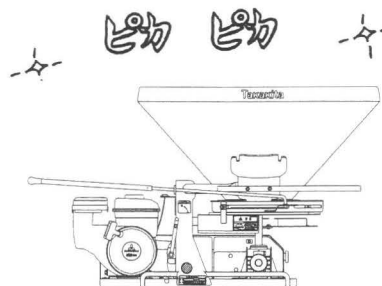
(5) 慣性回転に注意

クラッチを切ってもスピナーは慣性力でしばらく回転しています。完全に停止するまで触れないでください。



(6) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやかたまりを取除き、機械を常にきれいにしてください。



エンジン・マフラ・ベルトカバー・バッテリーなどに枯草、芝草がたまっていると、おもわぬ火災の原因となることがあります。機械を常にきれいにしてください。



⚠ 安全に作業するために

(7) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

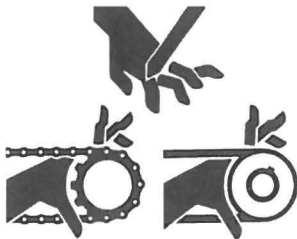
エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(8) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(9) 注油・給油するときは

エンジンを停止し、回転部分が完全に止まってから行ってください。

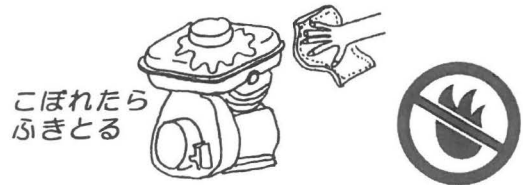
(10) 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草やマッチ・ライターなど裸火照明は絶対に使用しないでください。守らないと燃料に引火し、火災を起こす恐れがあります。



(11) こぼれた燃料はふき取る

燃料補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



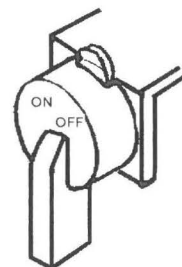
(12) マフラ・エンジンのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺に、ワラクズ・ゴミなどが付着していないか作業前に点検し、付着していれば取り除いてください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



(13) ストップスイッチの動作確認を

配線コードの外れなどが無いかを点検し、ストップスイッチをOFFにしてエンジンが停止するかを必ず確認してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



⚠ 安全に作業するために

(14) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部は充分注油して、
屋内の平坦な場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

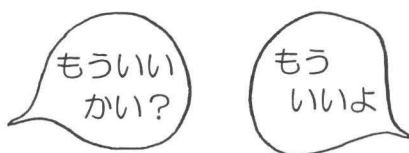
(1) 人や動物を近づけない

特に子供には充分注意し、近づけない
ようにしてください。



(2) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声
を掛け合うなどして、安全を確かめ合
いながら作業してください。



(3) エンジンを始動するときは

操作レバーが必ず中立になっているこ
とを確認し、周囲の人に合図をして安
全を確かめてから始動してください。
守らないと傷害事故を引き起こす恐れ
があります。

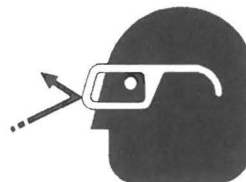


(4) 散布作業するときは

散布作業中は肥料が半径約 6 m の前方
範囲に飛散します。その範囲に人がい
ないことや障害物がないことを確認し
て作業してください。



また、肥料が飛散して目や呼吸器に入
る恐れがありますので、必ず保護メガ
ネと保護マスクを着用して作業してく
ださい。



保護メガネ着用
保護マスク着用

(5) 急な発進・停止・旋回・スピードの 出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・
旋回は、事故の原因となるだけでなく、
機械の寿命も縮めますので行わないで
ください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危
険です。作業スピードは極力落として
作業を行ってください。

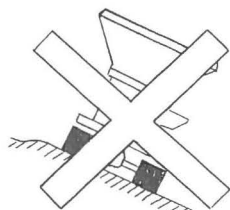
(6) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ① 斜面の等高線に平行、または斜めに走
行すると横転の危険があります。
斜面の作業は、必ず等高線に直角方向
に走行してください。

⚠ 安全に作業するために

- ②チェンジ操作は行わず、変速位置をあらかじめ低速にして速度を下げ、特に下り坂ではエンジンブレーキを使用してください。



- (7) 溝や畦を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



- (8) 作業途中で運転席より離れるときは平坦な場所に停車し、エンジンを停止し、走行クラッチを切り、駐車ブレーキを掛けてください。

- (9) 後進して作業するときは

後方に障害物のないことを充分確認し、本機と障害物の間に人や動物を挟まないようにしてください。



- (10) 高温油に注意してください

- ①高温油による傷害を防止するために作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。作業前か充分温度が冷えてから行ってください。
②火傷やケガを負った場合は、速やかに医師の診療を受けてください。



4. 道路走行・輸送するときは

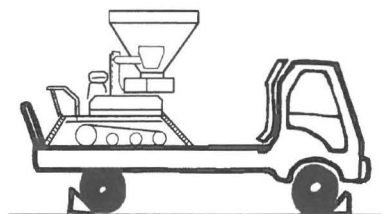
- (1) 公道走行はできません

運搬車に本機を乗せて公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラックなどで運送してください。

- (2) トラックなどへの積込み・積降ろしは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを停止し、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。

積込んだ機械は、強度が充分にあるロープで確実に固定してください。

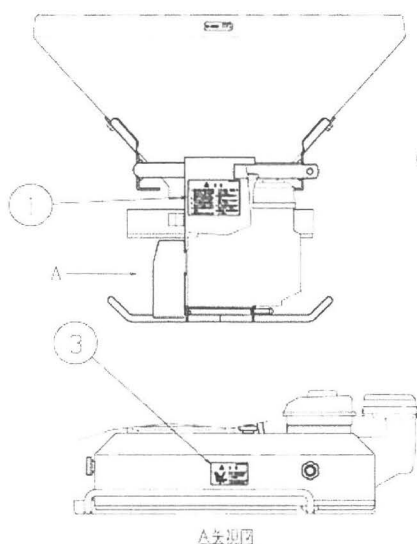


以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも

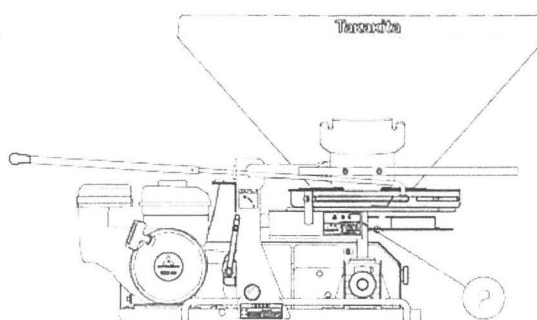
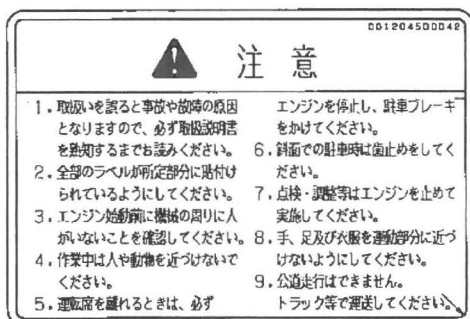
本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

5. 警告ラベルの貼付け位置



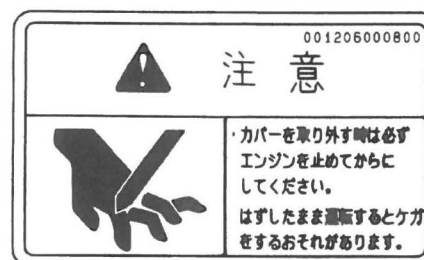
① 部品コード 001204500042



② 部品コード 001206000290



③ 部品コード 001206000800



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合は、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し、新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は、部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、同じラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、粒状・砂状の肥料の散布作業にご使用ください。

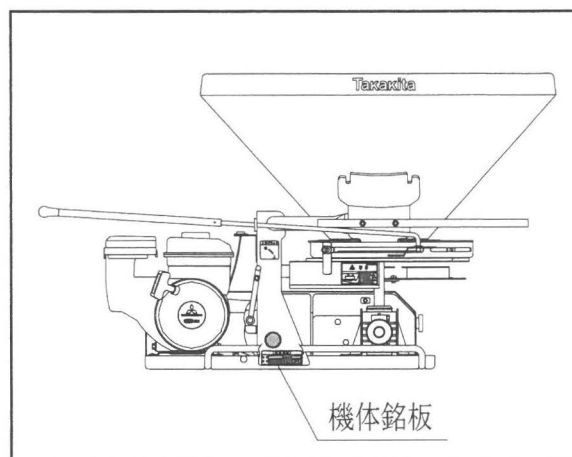
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

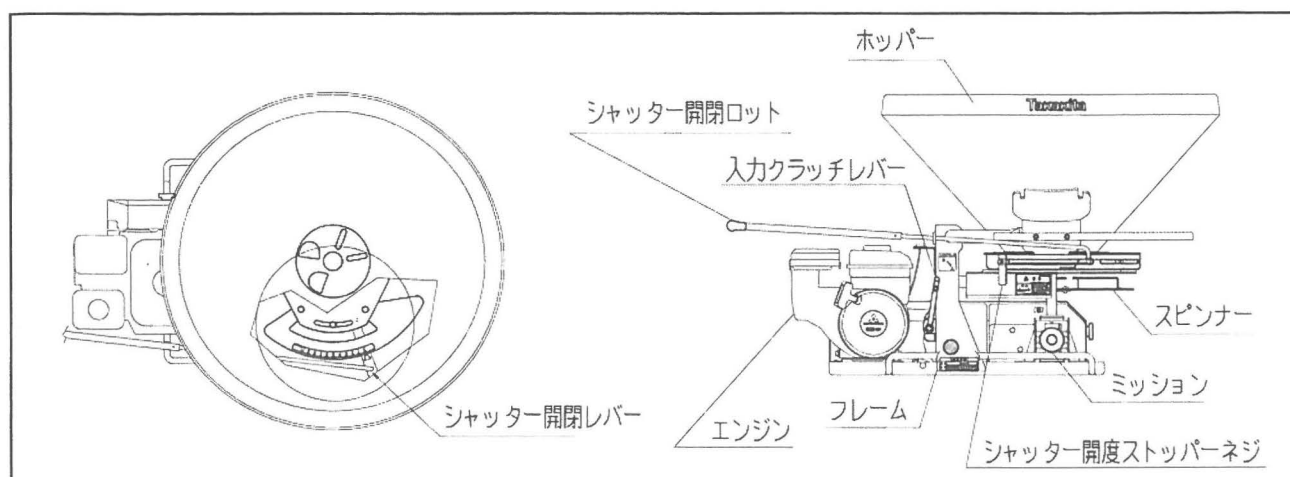
- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体Noは、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	フルーツキャスト
型 式	FC1212
機 体 No. (SER-No.)	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : ()

各部の名称とはたらき



名 称	は た ら き
ホッパー	肥料を投入するジョウゴ形の器です。
フレーム	全体の構成部を保持します。
シャッター開閉レバー	肥料散布シャッターの開閉及び散布量を調整するハンドルです。
シャッター開度ストッパーネジ	シャッター開閉レバーを適正な位置で停止させます。
シャッター開閉ロット	シャッターの開閉を手元で操作するためのロットです。
スピナー	肥料を飛散させる回転円板です。
エンジン	動力源・燃料はレギュラーガソリンを使用します。
入力クラッチレバー	散布部への動力を「入」・「切」するためのレバーです。
ミッション	エンジン動力を散布部へ伝えます。

運搬車への搭載

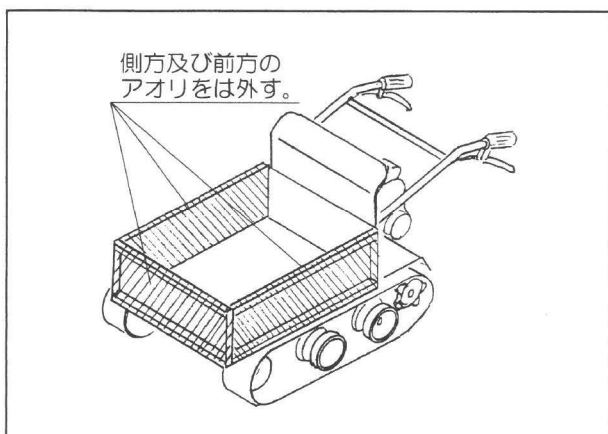
1. はじめに

本機は、お手持ちの運搬車（クローラ型・車輪型等）や軽トラックの荷台に搭載して、肥料の散布作業をするものです。

2. 搭載前の注意事項

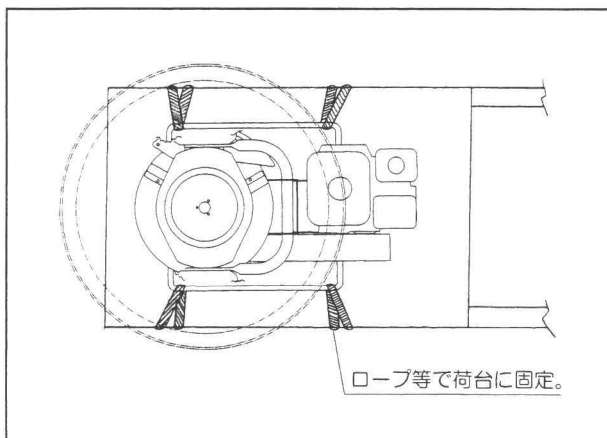
荷台のアオリは必ず取外すか、あるいは開けておいてください。

閉じたままですと、搭載条件によってはエンジンの排気ガスを再度エアクリナーから吸入することがあり、エアクリナーが短時間で汚れてしまい、性能低下の原因となるばかりでなく、エンジンの寿命を大きく低下させます。



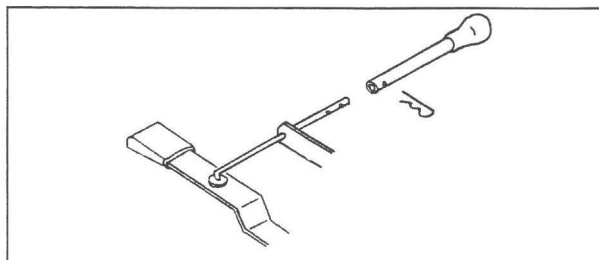
3. 搭載方法

本機を荷台の上に乗せ、「ロープ」もしくは、市販されている「ラチェット付き締結バンド」等を利用して荷台にしっかりと固定してください。



4. 開閉レバーの長さ調整

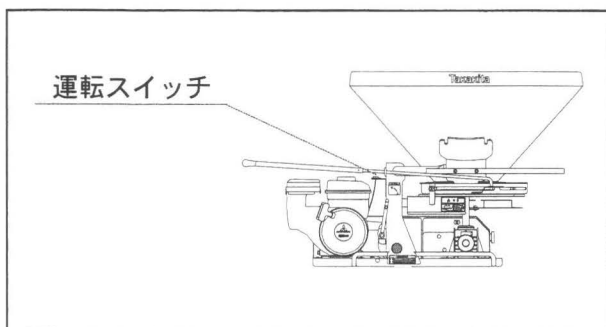
シャッター開閉ロットが手元で操作できるよう、ロットの長さを調整してください。



運転に必要な装置の取扱い

1. エンジンスイッチ

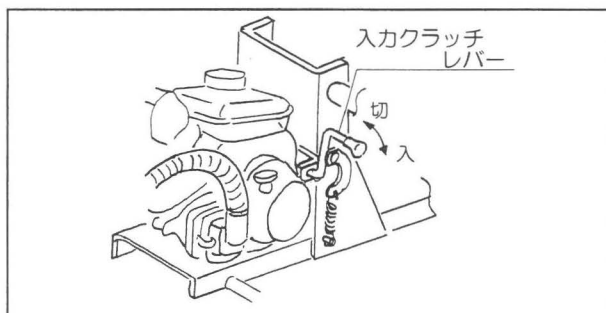
エンジンの始動時は「ON」にしてください。また、停止する場合は「OFF」にしてください。



注意

エンジンの取扱い詳細については、別冊のエンジン説明書をお読みください。

2. 入力クラッチレバー



入力クラッチレバーを「入」の方向にするとクラッチがつながり、散布部のスピナー及びアジテータが回転します。

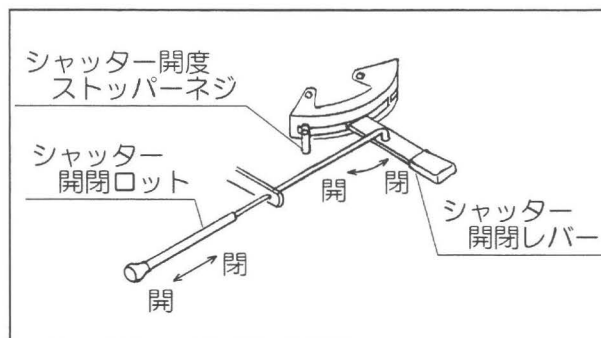
警告

- 入力クラッチレバーを「入」にするときは、まわりに人がいないことを確認のうえ、ゆっくりとつないでください。
- エンジン始動時は、突然スピナーが動き出さないよう、入力クラッチは必ず「切」にしてください。

3. シャッター開閉ロット

シャッター開閉ロットにより、散布の開始・停止を行います。

シャッター開閉ロットを手前に引くとシャッターが開き、散布を開始します。元に戻すと散布シャッターが閉じ、スピナーが回転していても肥料の散布は停止しています。



また、シャッター開閉ロットにより散布量の調整も行います。

シャッター開閉ロットを手前に引くほど、繰り出し量が増えます。(散布量の調整は12頁を参照してください。)

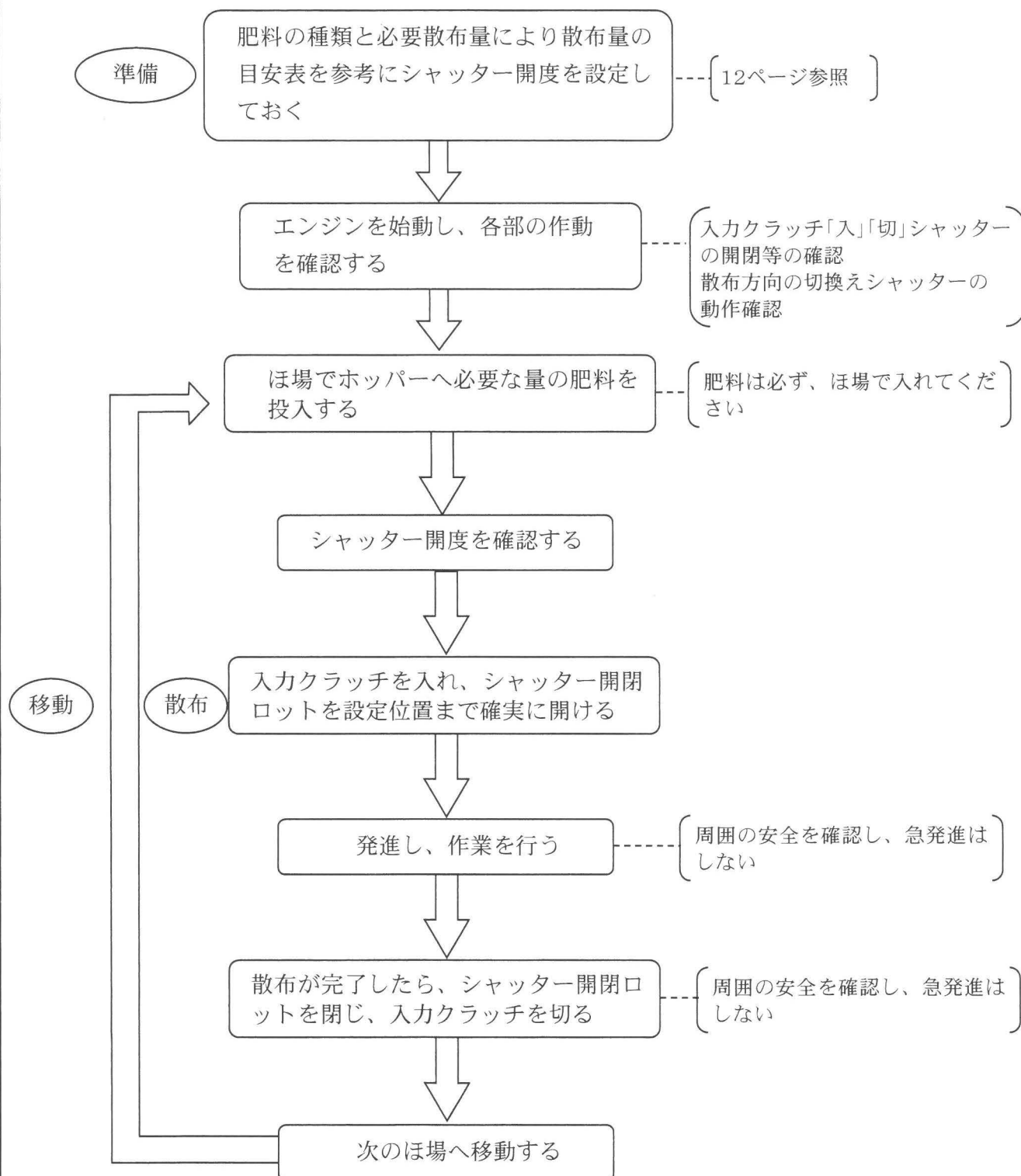
注意

シャッターを閉じた状態でスピナーを回転させると、ホッパー内のアジテータ周辺で肥料が圧縮され、ブリッジ現象による肥料の繰り出し不良や本機損傷の原因となります。

シャッターを閉じた状態でのスピナーの回転はやめてください。

作業方法

1. 作業手順と要点



作業方法

2. 肥料の投入

警告

本機の積載量は120ℓ(最大100kg)です。
規定以上の積込みを行うと機械の破損
だけでなく、安全な走行作業が行えませ
ん。十分注意してください。

- ① 運搬車を水平な場所に移動して、エン
ジンを停止し、駐車ブレーキをかけて
から肥料を投入してください。
- ② 肥料は散布に必要な適正量のみホッパ
ーに入れてください。不要な量の肥料は、
後作業にムダを発生させます。

注意

肥料は必ず、トラック等であらかじめ散
布ほ場へ運んでおいてから、散布の直前
にホッパーへ入れるようにしてくださ
い。
ホッパー内に肥料を入れたまま運搬す
ると、運送中に肥料がホッパー内で圧縮
されるため、ブリッジ現象による繰り出
し不良や散布ムラの原因となります。

3. 散布量の調整

散布量の調整は、シャッター開閉レバーの開度位置により行います。シャッター開閉レバ
ーの目盛は0から10までありますが、1の位置から徐々に開きはじめ、10の位置で全
開となります。

散 布 量 の 目 安				
粒状肥料の10a当りの散布量 (kg) の目安 (比重0.9時)				
有効散布幅 8m基準時				
車速 シャッター開度	1km/h	2km/h	3km/h	4km/h
1	40	20	13	10
2	114	57	38	29
3	264	132	88	66
4	414	207	138	103
5	525	263	175	131
6	639	320	213	160
7	795	395	263	197
8	975	488	325	244
9	1125	563	375	281
10	1389	695	463	347

作業方法

◆シャッター開度位置の選定

散布量の設定は前ページの表を参考にシャッター開閉レバーの開度位置を設定してください。

《例》

10アール当り粒状肥料を140kg散布したい場合、表中の140kgに近い数値を探すと次のような例となります。

時速1km/h 開度2→114kg

時速2km/h 開度3→132kg

時速3km/h 開度4→138kg

時速4km/h 開度5→131kg

以上の例から、ほ場条件・作業条件に適した組合せを選定してください。

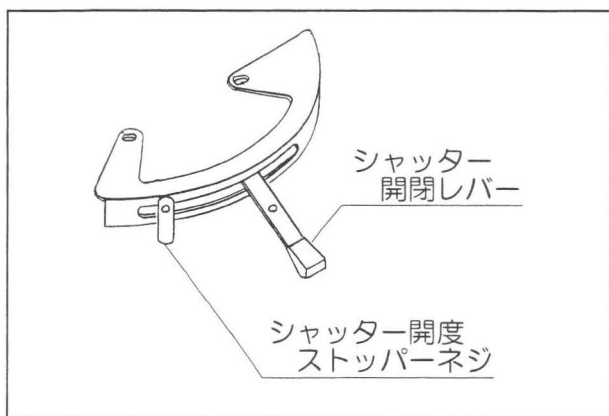
注意

目安表の数値は参考値としてお考えください。実際には肥料の種類、散布条件、ほ場条件により差異が生じる場合があります。

最初に使用されるときは、目標散布量の半分に設定して、2度播きされることをおすすめします。

◆シャッター開度ストッパーネジの固定

シャッター開度を設定したら、シャッター開度ストッパーネジで固定してください。



4. エンジンの回転速度について

散布機のエンジン回転速度を上げるほど、肥料の散布距離は長くなりますが、逆にアジテータによる肥料の破碎が多く発生するようになります。

エンジンの回転速度は、肥料の散布距離及び破碎状態を見ながら調整してください。

本機のエンジンは、最大回転速度1700 min⁻¹(rpm)にセットしておりますが、通常は1600min⁻¹(rpm)程度のエンジン回転速度で使用することをおすすめします。

5. 散布作業の方法について

◆作業手順について

①入力クラッチを入れ、シャッター開閉ロットを設定開度位置まで確実に引いてください。

② 肥料が本機前方に散布されるのを確認したら、運搬車の走行クラッチを入れ、走行を開始してください。

注意

散布範囲は、散布する肥料により異なりますが、前方への散布距離は最大5～6m、左右への最大散布幅は10～12mあり、作業開始位置と旋回位置はこの距離を考慮して作業してください。

⚠ 危険

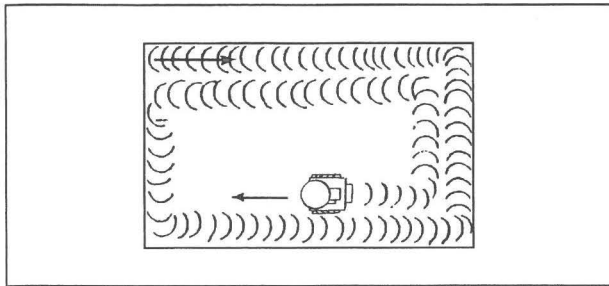
走行開始時には、ホッパー内に肥料が満載されているため、重量バランスをくずしやすい危険な状態にあります。急発進はやめてください。

注意

より均一な散布を行うためには、散布作業中の走行速度を一定に保つようにしてください。

作業方法

- ③ほ場内での走行は、下図のように旋回しながら散布すると均一な散布ができます。



注意

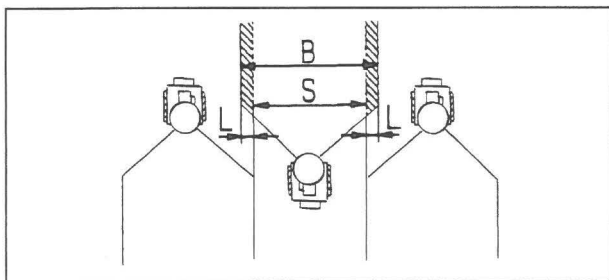
ほ場が広い場合は、作業前にホッパー容量と散布量を考慮し、あらかじめほ場の各所に肥料袋を置いておくとう能率の良い作業が行えます。

！ 注意

散布作業に入る前には、側方前方に人や動物がいないことを確認してください。

6. 散布幅について

- 散布幅は肥料の大きさ、スピナーの回転速度、風などに影響されます。
一般的には、大きい粒子の肥料の場合はスピナーの回転速度が速いほど散布幅が広がります。
- 肥料の種類によっても散布幅が変わります。その種類や特性により散布幅に適切な重複が必要です。



	粒 状	砂 状
S:有効散布幅	6～8m	2.5～3.5m
L:重 複 幅	1～2m	1～2m
B:最大散布幅	8～10m	3.5～4.5m

7. 傾斜地での作業

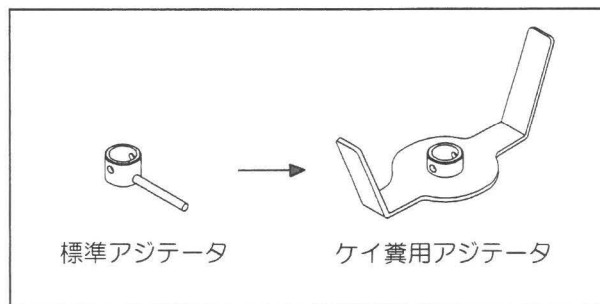
道以外では斜面に対して直角方向に走行し、旋回は速度を落とし、急旋回をしないでください。

！ 警告

斜面の等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。

8. ケイ糞(乾燥)・粉状有機肥料の散布について

ケイ糞(乾燥)や粉状肥料を散布する場合は、ホッパー内でブリッジ現象が発生しやすいため、ケイ糞用アジテータに交換してください。



注意

通常の粒状化成肥料には、ケイ糞用アジテータは使用しないでください。抵抗が大きいため、肥料の粒を砕いてしまい、有効な散布が行えません。

9. 移動するときは

①運搬車に搭載した場合

運搬車のまま公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。

公道を移動するときは、トラック等で運搬車ごと運搬してください。

②軽トラックに搭載した場合、そのまま移動してください。

移動してください。

作業方法

10. 運搬車のトラックへの積込み・積降し

トラックへの積込み・積降ろしは、次の要領で行ってください。

おもわぬ事故につながる恐れがありますので積込み、積降しとも充分注意してください。

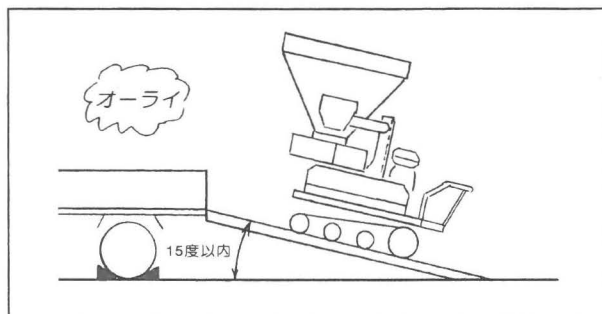
警告

- 積込み・積降ろしの場所は、周囲に危険物のない、平坦で安定した場所を選んでください。
- アユミ板のフックを荷台に段差のないように確実にかけてください。
- 周囲は機械が不意に動いたときに危険ですので立たないでください。
- クローラ式運搬車の場合、サイドクラッチを操作してアユミ板の上で進路変更を絶対に行わないでください。
クローラがアユミ板から外れて転倒する恐れがあります。
- アユミ板とトラックの継ぎ目を越える時は、急に重心が変わりますので十分に注意してください。
特に、スピードの速い時には転倒の恐れがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。

- ①トラックおよびトレーラへの積込み・積降ろしは平坦地を選び、補助者1名の立合いのもとで行ってください。
- ②積込み・積降ろしに使用するアユミ板は滑り止めがあり、運搬車の重量に充分耐えられるものを使用し、地面との傾斜角度が15度以内になる長さのものをご使用ください。
- ③アユミ板のフック部をトラックの荷台部に確実にかけて外れないことを確認してから、運搬車の積降ろしを行ってください。

④積込み時の速度は最低速度で安全運転をしながら行ってください。

⑤トラックおよびトレーラへの積込みは、必ず前進走行で行ってください。



11. トラックおよびトレーラでの運搬

警告

丈夫なロープを運搬車にかけ、確実に固定し、運搬車の駐車ブレーキをかけてください。

守らないと、急ブレーキをかけた時などに荷台から運搬車が転落する恐れがあります。

運搬車を運搬する時は運搬重量以上の積載量をもち十分な広さを有するトラックまたはトレーラを使用し、運転には坂道やカーブに注意して安全な速度を厳守してください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。



警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 調節・整備を行うときは、必ずエンジンを停止させてから行ってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。やけどをする恐れがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対に使用しないでください。また、燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと火災の原因となります。

点検一覧表

項 目	内 容	参照 ページ	チェック
前回使用の異常箇所	修理、補修が完全に行われているか	—	
損傷・汚れ・ボルトの緩み	車体の損傷、緩み、ガタつきがないか	—	
エンジンオイル	オイル量と汚れ、油漏れ	(エンジンの取説)	
エンジンの燃料	燃料の量と漏れ	(エンジンの取説)	
エンジンのエアクリーナ	エアクリーナの汚れ	1 7	
入力クラッチレバー	エンジンを始動し、散布部の「入」「切」を確認	1 0	
アジテータ・スピナーファン	摩耗していないか	—	
各部の回転	アジテータ・スピナーの回転は正常か	—	
シャッター開閉ロットの作動	スムーズにかつ開閉が確実か	1 0	

簡単な手入れと処置

警告

- ①各部の調整をするときは、エンジンを停止させて回転部が完全に止まってから行ってください。
- ②取外したカバー類は必ず取付けてください。

1. エンジンの点検・調整

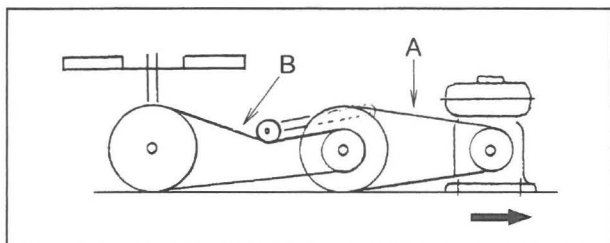
※エンジンについては別冊の「エンジン取扱説明書」を必ずお読みいただき、万全の日常点検・整備を行ってください。

2. エンジンのエアクリーナー

本機に使用しているエンジンのエアクリーナーは、ホコリ対策のため、オイルバス式のエアクリーナーを採用しております。作業前にオイルが入っているかを確認してください。不足していれば補充し、また、オイルがゴミやホコリ等で汚れている場合は新しいオイルに交換してください。

(オイル：エンジンオイルと同等品)

3. Vベルトの張り調整



Vベルトの調整は下表に従い行ってください。Vベルトに損傷がある場合は早めに交換してください。

場所	ベルトサイズ	本数	調整方法
A	A-33	1	緩んでいる場合はエンジン取付けボルトを緩め、エンジンを後方へ移動させてベルトを張ってください。 ベルト中央部を指で押し、(約3kg)10～15mmのたわみとなるようにしてください。

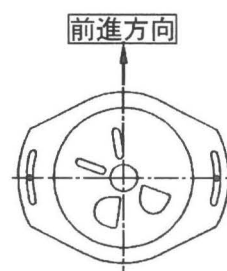
B	LA-35	1	テンションクラッチとなっております。入力クラッチを「入」にしたとき回転が伝わり、「切」にしたとき切れることを確認してください。
---	-------	---	---

4. 散布方向の調節

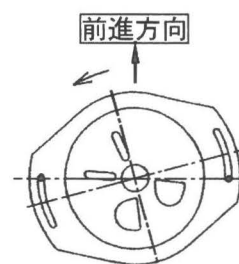
肥料の種類や比重の違いにより、散布肥料の分布中心が片寄りすることがあります。

もし片寄りが発生する場合は、次の図を参考にホッパー底板の肥料の落下口穴位置を動かして調節します。

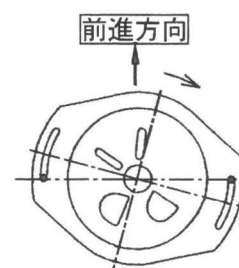
《標準出荷状態》



《右に散布中心が片寄りする場合》



《左に散布中心が片寄りする場合》



簡単な手入れと処置

5. 肥料について

- 肥料は湿気が少なく、乾燥後粒度が均一で、塊や異物の混じっていないものを使用してください。
- 湿った肥料や、ビニール片等の混入した肥料は散布ムラの原因となりますので使用しないでください。

注意

湿った肥料は、ホッパー内でブリッジ現象や詰まりを起こしやすく、またビニール片等はアジテータに巻き付いたりして不均一散布の原因となります。

6. 運搬車のエンジン保守点検（重要）

フルーツキャストは、肥料散布作業中ホコリを多量に発生します。

このため、フルーツキャスト駆動エンジンだけでなく、運搬車のエンジンも多量のホコリを吸込む場合があります、エアクリーナの点検、清掃が大変重要となります。
作業前には毎日点検掃除を行ってください。

守らないとエンジンが不調になるばかりでなく、エンジンの摩耗が早まり、寿命が大きく低下する原因となります。
点検、掃除の方法は運搬車（エンジン）の取扱説明書を参照してください。

7. 日常の管理について

- シャッター部に水分が付着していると、肥料の繰り出しが悪くなります。
水分や付着物を乾いた布で拭き取ってから使用してください。
- スピンナーファンに肥料が付着していると散布性能が変化します。いつも、きれいにしておいてください。
- 使用後は、ホッパー内に肥料を残したまま放置しないでください。肥料が固まって故障の原因となります。
- 作業終了後は、常に掃除をするように心

掛けてください。

- 雨中での作業ならびに屋外での保管は避けてください。
守らないと、散布する肥料により、エンジンキャブレターの不調をきたす場合があります。
- 降雨中作業された場合は、作業終了後エンジンが冷えてからエンジンキャブレターまわりを必ず水洗いするようにしてください。

警告

残った肥料の取出しや掃除をするときは、入力クラッチを切り、エンジンを完全に停止させてから行ってください。

8. 長期格納時の手入れ

長期にわたって、ご使用にならない時は次のことを行い、本機を保管してください。

- 水洗いし、付着した肥料やホコリなどを落とし、異物を取除いてください。
☆苛性カリを含んだ肥料を散布した後は、特に念入りに水洗いしてください。
- 乾燥後は、各回転・摺動部には充分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、補修塗料等を塗って錆が出ないようにしてください。
- 各部のボルト、ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときには締めてください。
- エンジンの燃料タンクからガソリンを完全に抜いてください。また、燃料パイプ等に残ったガソリンはエンジンを始動し使い切ってください。
- 格納する場所は、雨や埃のかからない屋内にて保管してください。
- 格納は、平坦なところで保管してください。

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
●散布跡に濃淡がある	●散布幅に対し、重複散布をしていない	●有効散布幅に対し、適切な重複散布幅を設ける	14
●散布量が安定しない	●アジテータ・シャッター開口部に異物が絡まっている ●ホッパー内で湿った肥料が詰まっている	●エンジンを停止して異物の除去 ●乾燥した肥料に入れ替える	—
●散布量が少ない	●上記項に同じ ●シャッターの開口穴より、肥料の粒径の方が大きい（少量散布の時） ●ベルトがスリップする	●上記項に同じ ●シャッター開度を充分、大きくして作業速度を速くする ●ベルトの張りを調整する	— 12 ～13 17
●散布幅が狭い	●スピナーファンが摩耗している ●エンジン回転速度が出ていない ●ベルトがスリップする	●新しい部品と交換 ●エンジン回転速度を上げる ●ベルトの張りを調整する	20 — 18
●エンジンが始動しない	●燃料タンクにガソリンが入っていない ●燃料コックが「閉」になっている ●燃料に水などの不純物が混入している ●点火プラグが悪くなっている ●エンジンスイッチが「OFF」になっている。	●ガソリンを補給する ●燃料コックを「開」にする ●水抜きまたは新しい燃料にする ●点火プラグを外し、火であぶるか、乾いた布などでよく拭き乾燥させる ●点火プラグのすき間を調整する ●エンジンスイッチを「ON」にする	(エンジンの取説) 〃 〃 〃 〃 10
●エンジンの定格出力が出ない	●エアクリーナが目詰まり ●チョークが戻っていない	●エレメントを清掃する ●チョークを戻す	17 (エンジンの取説)

付 表

1. 主要諸元

品 名	フルーツキャスタ	
型 式	FC1212	
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1170
	全 幅 (mm)	880
	全 高 (mm)	730
質 量 (kg)	52	
有 効 散 布 幅 (m)	8(最大)	
作 業 速 度 (km / h)	1～4	
作 業 能 率 (分 / 10a)	3.1～12.5	
エ ン ジ ン	メ ー カ ー	ミツビシ
	種 類	空冷4サイクルガソリンOHV
	定 格 出 力 (kW / min ⁻¹ { ps / rpm })	1.6 / 1800 { 2.2 / 1800 }
	最 大 出 力 (kW { ps })	2.2 (3.0)
	始 動 方 式	リコイル式
	回 転 速 度 (min ⁻¹ { rpm })	1800
	散 布 方 式	スピナー方式
散 布 部	ホッパー容量 (ℓ)	120
	最大積載量 (kg)	100
	スピナー回転速度 (min ⁻¹ { rpm })	500 (エンジン 1800)
散 布 方 向	全面	

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

2. 主な消耗部品

部 品 名 称	部品コード	数量	備考
Vベルト(エンジン→中間プーリー)	03610 0010 330	1	A-33
Vベルト(中間プーリー散布ミッション)	03610 2110 350	1	LA-35 (オレンジ)
スピナーファン	23102 3721 000	3	